

朝霞調節池・朝霞水門

～新河岸川を洪水から守る～

新河岸川による洪水被害を防止するため、調節池で洪水を貯めたり、水門で洪水を逃がしたりする施設です。



朝霞調節池



朝霞調節池の下流にある朝霞水門



台風4号による浸水被害（埼玉県志木市 1966（昭和41）年6月）

朝霞調節池・朝霞水門とは

朝霞調節池は、新河岸川の洪水を一時的に貯留することにより下流区間の河川流量を低減し、新河岸川からの洪水による浸水被害を防止するための施設です。また、一般的に新河岸川の洪水のピークは荒川よりも早く、そのため朝霞水門を開けることにより、新河岸川の洪水を荒川に分派し、新河岸川流域の浸水被害を軽減することができます。

昭和30年代後半から流域の市街地化が進み、低平地において浸水被害が生じやすい状況になりました。特に1982（昭和57）年洪水では新河岸川は総被害額211億円にも及ぶ甚大な被害が発生しました。

朝霞調節池整備事業は、1980（昭和55）年度に着手し、2004（平成16）年度から暫定供用を行い、2008（平成20）年度の施設完成により本供用を開始しました。

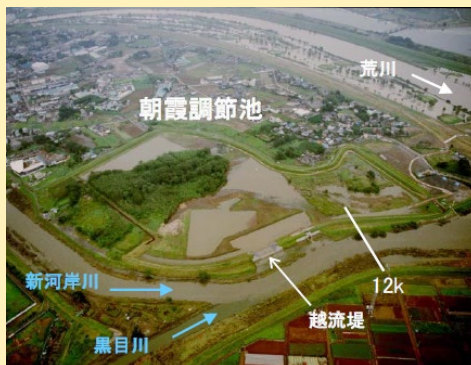


朝霞調節池施設位置図

あさかちょうせつち 朝霞調節池の効果

洪水で新河岸川の水位が上昇すると、調節池の入り口である越流堤から池の中に水が入り、洪水の一部を貯留して下流への流量を少なくします。

2004（平成16）年台風22号の出水において、朝霞調節池で28.4万m³（25mプール約630杯分）の洪水が貯留され、下流河川の流量低減が図られました。



平成16年10月 台風22号の出水状況



朝霞調節池への流入状況

きしょう 希少植物が育つ場所

朝霞水門の周辺は、湿地性の希少植物が多く育つ地域です。1992（平成4）年には、埼玉県ではすでに絶滅したと考えられていた植物のトダスゲが朝霞水門付近で発見されたほか、全国的に減少しているフジバカマなどの貴重な植物がさらに見つかっています。また、新河岸川の旧流路から周辺の竹林やハンノキ林にいたる自然のつながりは、多くの動物たちのすみかやエサ場として大切な役目を果たしています。



秋の七草のひとつフジバカマ

コラム 1982(昭和57)年の洪水

本州を縦断した台風18号の総雨量は、9月10日の降り始めから12日の降り終わりまで、三峰336mm、名栗348mm、川越338mmで、荒川上流域にほぼ平均して降りました。この雨で人口増加の著しい、入間川、新河岸川は大きな被害を受け、特に新河岸川では被害総額211億円にも及ぶ甚大な被害となりました。

この災害で新河岸川は、国の激甚災害対策特別緊急事業の指定を受け、集中的な河川改修工事が実施されました。



新河岸川の支川、柳瀬川の浸水

アクセス

あさかちょうせつち
朝霞調節池

交通：東武東上線「朝霞駅」下車、徒歩約40分

住所：朝霞市下内間木地内

あさか
朝霞水門

交通：東武東上線「朝霞駅」下車、徒歩約30分

住所：朝霞市下内間木地内



あさかちょうせつち
朝霞調節池